



軽やかな風に寄せて

それでも、
終業の鐘が訪れたこの午後に
きらめく若葉は
ようやく訪れた青春に気付かぬまま
初夏の香り高い風の中に
喜びの呼吸を止めることがない

淋しさなどなく 若々しい自負に満ちて
どこまでも完全に完璧に
足取り軽く 世界は魔法に吹き荒れて
いつまでも普遍に不安に

今年生まれた細っこい枝葉は
手にいれたばかりの柔軟さを持って
微笑む風を受け入れる
黄緑色の恋を知った彼らは
穏やかな 情熱を知らない心で
あらゆる子どもと大人たちに
若葉の模様を 刺繍している

それでも、風は淋しさに身を焦がして
恋をすることもできずに
ただ心地よさを
私たちの手のひらで作った器に
一粒、涙の形をとって
落としていってしまう